



えがおまんまる！なかまるっこ

こども未来局 保育・子育て推進部 中丸子保育園
令和8年2月1日

年が明けたばかりだと思っていましたが、早いもので今年度も残り2か月となりました。

冬ならではの雪(今年は降るかな?)や氷等の自然物に触れたり、からだの中から暖かくなるような遊びをたくさん取り入れ、寒さに負けず過ごしていきたいと思います。

今月の予定

- 3日(火) 節分集会
4(水)~6日(金) なかよしランド(乳児2/6日参加)
27日(金) 誕生日会(幼児)



今月の玄関装飾

今月はうさぎ組(3歳児)が
ゆきだるまを作りました。
白い画用紙をはさみで
切り、マフラー部分は
好きな毛糸を選んで作
りました。雪は絵具をゆびに
つけ、「雪をたくさんふら
せるぞー！」とスタンプの
ように押していました♪



♪今月の歌♪

ヤンチャリカ
うれしいひなまつり



危機管理の取り組みについて

昨年も日本各地で様々な災害が起き、保護者の皆さんもいざという時の避難先や備え等について再確認されたのではないでしょうか。

中丸子保育園では、「職員がいざという時に自主的に行動することができ、子どもたちと自分たちの身を守ることができる」ということをねらいに掲げ、前年度の反省を元に翌年の防災訓練の年間計画を立てています。今年度回数や時期等の見直しをしたものの中に、①子ども向けの「防災なかよしデー(幼児)」と②浸水害対応訓練がありました。見直して良かったと思ったエピソードを一つご紹介します。

7月、東京湾内湾の津波警報・注意報が発表された時のことです。

発令時、子どもたちはプール遊びの真っ最中でしたが、少し前に行なった集会(防災なかよしデー)での水遊び時の避難を思い出し、一人一人が自信をもって行動することができました。そして職員も安全確保後に浸水に備えた園舎内の準備をスムーズに行なうことができました。幸い中丸子保育園は被害なく済みましたが、訓練の大切さをあらためて感じた出来事でした。

子ども向けの防災なかよしデーは、2月中旬に「体験型防災なかよしデー」として2回目を実施します。これは、コーナー遊びの中で災害疑似体験を通して「災害時に子どもたちが自分の身を守るために大切なことを知り、やってみようすることにつながることをねらいにし、災害の怖さや身を守るために必要なことを楽しみながら学ぶ機会にしていきたいと思います。

にこにこデーの取り組み

『にこにこデー』は、乳児(1、2歳児)が異年齢交流を行う日で、今年度は9月から月2回行っています。

1、2歳児クラスの部屋を使ってコーナー遊びをしたり、普段のクラス保育だけではなかなかできないお店屋さんごっこやお風呂屋さんごっこ、ボールプール、リズム、散歩等毎回工夫しながら行っています。最初のころは一人で好きな遊びをしたり、クラスの友だちだけで遊びを楽しんでいる姿が多かったのですが、回数を重ねていくうちにクラスを越えたやり取りが見られるようになりました。12月くらいになるとそれぞれのクラスの友だちを名前で呼び合い、誘い合って遊ぶ姿も増えてきました。

1歳児は2歳児の姿に興味津々。一緒に遊ぶ中で刺激を受け、真似する姿も多く見られます。2歳児は自分より小さい子に優しい気持ちをもって関わることが自信につながっていると感じています。引き続き、子どもたちが自然な形で関わり、やり取りを楽しめるよう、クラスの垣根を超えた楽しい活動を展開していきます。



ランチルームの取り組み

中丸子保育園では、約2年前から幼児クラスでランチルームを実施しています。

今回は、現在の実施方法と、これまでの流れをご紹介したいと思います。

【現在の実施方法】

◎3、4、5歳児対象

◎11:30～12:10の間で食べたい時間にランチルームで食べることができる

◎まだお腹のすいていない子は、主にきりん組(4歳児)保育室で遊ぶ

◎ランチルームに来た子は順番に配膳台に食事を取りに来る。主食・汁ものの量を選ぶことができ、お盆を使って自分の席まで食事を運ぶ

【これまでの流れ】

ランチルームを始めた理由の1つは、昼食の時間になっても「お腹がすいていないから」となかなか食事が進まない姿があったからです。そのため、職員で食事について話し合いを重ねた中で、登園時間も朝食を食べる時間も違うため、昼食時間と同じにしなくてもいいのではないか、という結論に達し、ランチルームを始めました。

“年上の子の食事の様子を見て憧れをもつことで、食への意欲やマナー意識の向上につながる” “担任だけでなく複数の職員が見守ることで、様々な視点から食事支援ができる”などランチルームの良さを実感しています。

良さがある半面、課題もあります。最近では、楽しさが勝り、友だちとの会話や遊びが増え、食事が進まない姿がありました。そこで、30分時計を作つてテーブル毎に置いてみたところ、子どもたち自身が時間を意識しながら食べる姿が増えてきました。

その時の子どもの姿や園の環境などによって、ランチルームを行う良さも課題も変化し続けます。私たちはそれらの状況に専門職としてしっかりと向き合い、ランチルームのあり方を探っていきます。今後も、ランチルームが無理のない形で、子どものための最善の利益につながるよう考えていくことを職員間で確認しました。保護者の皆様の率直な感想やアイデア、気になる点など教えていただけすると嬉しいです。(職員の資質向上にもつながります。)よろしくお願ひします。

